

あいさつ

砂川市長 善岡 雅文



新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、1月に新型コロナウイルス感染症が北海道内で初めて確認され、4月には国の緊急事態宣言、11月には北海道で1日の感染者が初の200人を超え、空知地方でも感染者が増加し、予定されていたイベントの多くが中止となるなど、北海道、日本、そして世界が新感染症対策に奔走した1年でありました。

このような中、第二種感染症指定医療機関に指定されている市立病院では新型コロナウイルス感染症患者を受け入れながら、「地域に求められる医療」を継続して提供できるよう感染症対策の強化に努めているところであります。

感染症の拡大による消費の低迷、感染防止のための外出自粛などにより市内事業者は大きな影響を受け、緊急経済対策では、「緊

急経営支援」、「経営支援」、「消費喚起支援」、「新生活様式定着支援」の4つの段階的な支援策を実施いたしました。

また、一昨年より工事を進めております新庁舎は、昨年4月に新庁舎立柱式にて1本目の鉄骨が打ち込まれ、現在ではレンガ色の外壁工事が完了し、防災拠点機能を備えた堅ろうな庁舎がついに姿を現しました。

これまで、「安心して心豊かに いきいき輝くまち」を目指し、砂川市第6期総合計画に基づき、まちづくりを進めてまいりましたが、新たに、市議会の議決をいただき、令和3年度から10年間の「砂川市第7期総合計画」を策定いたしました。笑顔があることで「ずっと住み続けたい」、「これから住みたい」、「帰ってきたい」と思えるような、愛着を持てるまちづくりの実現に向け、目指す都市像を「自然に笑顔があふれ 明るい未来をひらくまち」として計画を推進してまいります。

本年は、10年に一度の新しい総合計画の船出の年でもあります。感染を予防しながら日常生活を送る「ウイズコロナ」が続く1年になることが想定されます。市民の皆様には長期間にわたり感染防止対策にご尽力いただき、感謝を申し上げます。年が明けても依然先行きが不透明な状況ですが、この難局を乗り越えるべく全力を尽くしてまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りたいと存じます。

1日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、ご健勝で幸多き年となるよう心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

新年のご

砂川市議会議長 水島 美喜子



新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、新春を健やかに迎えられましたことと議員一同心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会活動に対するご厚情とご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でありました。日本はもとより、世界的な流行により、多くの社会・経済活動が停滞し、市民の皆様にも大きな影響がありました。市としても、感染防止に向けた啓発活動や、さまざまな経済対策が提案され、市議会における議論を経て、決定、実行してまいりましたが、まだまだ終息には至らず、今後の状況を注視していかなければならないものと考えております。

そのような中であって、昨年の9月議会には、令和3年度からの10年間の市のまちづくりの方向性を示す「砂川市第7期総合計画」が提案され、12月議会において議決したところであり、また、今年5月には、新庁舎がオー

ブンする予定であり、市民の皆様が利用しやすい庁舎になっているものと期待しております。さらに、砂川駅前地区基本構想を策定し、より具体的な基本計画の策定に取り組んでいるところであり、これからの砂川の新たな一歩となる1年が始まったという思いを強くしているところでございます。

そして、これからも、少子高齢化や人口減少社会、度重なる自然災害など、多くの課題に対応するため、地域の特色を活かした産業の振興、雇用の確保などの地方創生を進めると同時に、防災対策にも力を注ぐなど、着実に施策を展開し、まちに賑わいを取り戻し、市民の皆様が安心して、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んでいかなければなりません。

市議会といたしましても、これらの課題に立ち向かうため、議会の果たすべき役割と責務を自覚し、議員一人一人が市民の皆様が多様なニーズをしっかりとくみ上げて市政運営に反映させ、活発で分かりやすく、皆様に期待される議会となるよう議員一同全力で取り組んでまいり所存でございます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。



本年もよろしく

お願い申し上げます

令和3年 元旦

砂川市議会議長一同